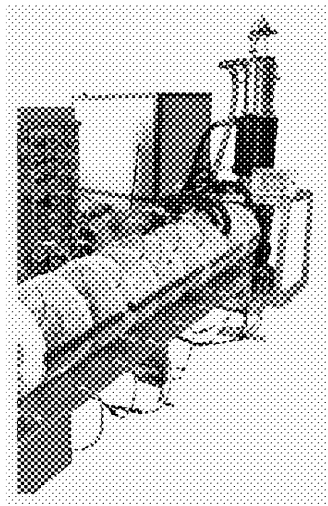


# バイオ医薬品製造に参入

モリモト  
薬 凍結乾燥技術を応用

モリモト医薬（大阪市西淀川区、盛本修司社長）は、バイオ医薬品の受託製造に参入する。新型コロナウイルス感染症ワクチン製造で実用化を進めている凍結乾燥粉末製剤技術がバイオ医薬品製造にも適用していると判断した。次世代バイオ医薬品製造技術研究組合（MAB）へ加入し、複数の企業や研究機関などと情報交換を開始。2023年に本社内で完成予定の第1工場で、ワクチンと並行してバイオ医薬品製造も行っていく。



モリモト医薬の凍結乾燥粉末製剤は薬剤の原液をスプレー状に噴霧し、低温の真空管を通過させて凍結する。凍結乾燥粉末製剤の製造装置。ワクチンに加えバイオ医薬品へも応用する。

自技術。従来の凍結乾燥粉末製剤で課題となっていた均一な温度管理がしやすい上、短時間で製造できる。連続して噴霧することでスケールアップも容易。新型コロナウイルスワクチン製造の準備で同技術が注

目された際、バイオ医薬品の製造にも適用していると言われた。これをきっかけに、バイオ医薬品を国際基準で効率的かつ高度に製造する技術の開発を目指しているMABへ参加した。

従来、バイオ医薬品の製造はタンクの大きさにより環境が変化するため条件変更が必要となり、スケールアップが課題で製品化に時間がかかっていた。モリモト医薬の凍結乾燥粉末製剤は一定ペースで噴霧して総量の変動

で対応できる。1度条件を確立すれば製造量が変わっても全て同じ条件で製造可能という。治験薬から量産まで一括して引き受けが可能で、開発の迅速化にも貢献できるとみている。